

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900086		
法人名	有限会社ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホームウェルネス津川		
所在地	高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	平成31年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の思いに寄り添い、その人らしく暮らし続けられるよう支援しています。職員一同「笑顔」を大切に、利用者と地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考え、行事への参加時に食事作りなどでお手伝いいただき、職員・ボランティアとの交流の場となるよう働きかけています。今年度は入退居が重なり、利用者の中には環境の変化に戸惑われることもあり、その都度、管理者・ケアマネと職員が協力してケアの統一ができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「利用者中心」と「地域貢献」を掲げている。まず「利用者中心」については、利用者の気持ちに沿った支援に努めている。スケジュールに組み込まれた体操や歌などの活動に参加しなくても、好きな時に体操したり歌を唄ったりしたいという利用者の意向をくんでいる。その利用者は来客がある時など、歌でおもてなしをしてくれることもある。次に「地域貢献」では、独居の人達が集まれる認知症カフェを実施している。交通手段を持たない独居の人達の為に、通いやすい公民館を会場にした。隣接する市民センターは、公民館長を紹介してくれたり、認知症カフェのチラシを区民分回覧に添付してくれたりなど、大変協力的である。餅つき大会を実施する時は、いつも地域の人が手伝いをしてくれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や玄関に掲示し、朝礼時に唱和している 毎月会議で入居者の思いを共有しプランに反映、実践につなげている	入職時に理念の意味を説明し、理解してもらった上で業務に取り組んでもらっている。理念に掲げる「入居者中心」を心がけ、職員の都合に合わせたケアではなく、利用者の思いに沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回の出張認知症カフェを2カ所交互に実施している 小中学校の生徒との交流、地域の祭り等に参加	隣接する市民センターで地域の祭りを実施する際は、駐車場を開放し参加もしている。小学校の教頭先生が毎月学級通信を届けてくれる。また認知症サポーター養成講座を実施し、認知症への理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回の出張認知症カフェを実施し、カフェを通じ理解や支援をしてもらっている 市民センターや小学校で認知症サポーター養成講座を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じホームの活動状況や入居者の様子、ヒヤリハット、行事・研修の報告をしている。委員の皆さんには行事の内容について相談し参加してもらっている	事業所の取り組みを伝え、意見をもらっている。認知症カフェの参加者が増えないことを相談すると、独居の人は事業所への交通手段がないため、集会所等で実施してはどうかとの提案があり、実施することにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、認知症カフェに参加してもらっている 認知症サポーター養成講座を市役所・社会福祉協議会等と協力し行っている	市とは協力関係が築かれている。いつも認知症カフェに参加している人が欠席した時などは、市へ情報提供し安否確認に役立っている。市民センターの館長に、新しく認知症カフェを開催する集会所の役員を紹介してもらい、実施にこぎつけた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け定期的に会議を開き内容を全職員に回覧し周知徹底させている ホーム内外での研修会に参加し廃止に取り組んでいる	玄関は施錠してあるが、利用者が外へ行きたい様子が見られれば、一緒に外へ出ている。「ここに座っててください」など、言葉による拘束についても、身体拘束会議の議題にあげ、注意喚起をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け定期的に会議を開き、その内容をユニット会議で全職員に周知、禁止事項等について理解し虐待につながる行為等が見過ごされないよう話し合っている。機会があれば研修に参加するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人をして下さっている弁護士から制度について学ぶことができた 家族や市役所と連絡を取りながら必要に応じ活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時に利用契約・重要事項について丁寧に説明し、理解してもらったうえで契約をしている。疑問点については都度対応するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに「意見箱」を設置している 面会時に意見や要望を聞くようにし、ユニット会議・リーダー会議で報告し全職員で共有している	家族が面会から帰る時に、気になったことが無いかどうかを尋ねている。さらに面会中の家族が利用者の足を擦っているのを見た場合などは、むくみを気にしている事を察し、すぐに対処するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議で意見・要望を自由に発言できる機会を設けている 会議以外でも各リーダーに要望等を相談、運営に反映させるよう努めている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、遠慮なく提案が言える環境作りに努めている。リーダーは入職したばかりの職員にも、何か提案はないか尋ねてくれるので、意見が言いやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回の賞与支給のほか資格取得を推奨し取得のための一部補助、資格手当の支給 受講・受験できるよう勤務調整している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問事業を活用しての自施設研修や接遇研修のほか社外での研修や講習会の機会を増やし多くの職員が出席できるよう勤務調整をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種及び介護支援専門員の交流会、キャラバンメイト・認知症カフェ連絡会議に出席し同業者との交流を図り意見交換等し、職員間で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で家族やご本人の思い等をしっかり聞き、安心して生活できるよう努めている 何でも言っただけの雰囲気作りをする。笑顔や穏やかな声かけで安心感を持っていただく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、困っていることを否定的な気持ちで聞くのではなく話しやすい雰囲気作りをする ご家族には「いつ来ていただいても良い」ことを伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つの支援だけに執着せず多方面にわたり情報を収集し対応する 本人・家族としっかり話し合い必要なサービスを提供できるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能に応じ、自分のことだけではなく食器洗い・食器拭き・掃除等できる事を職員と一緒にしていただき出来る喜びを感じていただくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の日頃の様子を伝え常に情報を共有し自然に関わりが持てるように努め、ともに本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人が来やすい雰囲気づくりに努めている。面会や外出・外泊など馴染みの方との関わりを保てるように支援している 面会時等、「また来よう」という気になっていたか職員は明るい対応を心がけている	利用料を振込みではなく持参してもらい、月に1度の面会の機会としている。面会者が訪れた時は、いくら多忙な業務中であっても来てくれたことに必ず感謝をし、笑顔で対応する事で足を運びやすい雰囲気を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人を尊重し関わる。感情の変化を理解したうえで、職員が間に入りクッションになったり橋渡し役をしながら孤立、不穏にならないよう努めている(職員は常に中立の立場で対応している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先等へ面会に行ったり、ソーシャルワーカー等との近況や過去の情報のやり取りをすることがある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からこれまでの暮らしぶりを聞いたりホームの生活の中で本人の意向を汲み取るようにし、一人一人の思いや希望を聞き、職員間で共有し支援に努めている	スケジュールに組み込まれた「歌の時間」に参加しなくとも、「好きな時にうたいたい」という意向をくんでいる。働かないと昼食を取ってはいけないと思い込んでいた利用者には、食器拭き等を手伝ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や思い出話、家族からの話を聞き、生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、表情等の様子観察をしている ケアプランに本人のできる事を組み入れプランに沿ったケアの実践を心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに定期的にカンファレンスを行い現状のニーズに沿った介護計画を作成していくよう努めている	毎月担当者がモニタリングを実施し、目標が達成出来ているかどうかを確認している。利用者が重度化し、目標が難しいと感じた時は計画書を作り直している。家族の要望は、面会時に確認をして計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の大切さを認識させ、日々の様子や状態の変化など見逃すことのないよう記録し、ケアの実践、見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や病院受診等必要な時は対応できるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアに來所してもらうなど安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるよう支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、対応をしている。以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力している。車椅子利用者は、職員が通院介助をし、継続支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝夕のバイタルチェック、入浴時の全身観察等、日々の心身の状態の気づきを管理者に伝え受診できるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談をしている 入院中、利用者が不安なく過ごせるように家族や医療関係者に情報提供するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応について家族からある程度の方針を聞き、必要に応じてホーム関係者、家族、医師とで話し合う機会を設けチームでの支援に努めている 介護度が上がった時、今後の希望等を再確認している	重度化した場合は、事業所ができることを十分に説明した上で、家族に要望を聞き対応をしている。医療処置が必要になった場合も、再度家族にこのまま事業所で終末期の対応をして良いかどうか確認している。看取り支援を実施する場合は、急変時の対応が可能な協力医に変更してもらうことを依頼し、最期まで安心して過ごしてもらっている。	入居時に、重度化した場合の対応について説明をしている。今回急死した利用者の家族が遠方で、半日近くそのまま預かることとなった。入居時の重度化の説明の際に万が一の事態についても確認することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習や避難訓練時に対応の訓練をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を地域の方、地元消防団・消防署職員等の協力を得て行っている	年1回は消防団の人に参加してもらい、利用者の状況把握をしてもらっている。避難訓練には、消防署以外に、消火設備業者にも参加してもらい、設備器具がスムーズに使えるよう、使用方法の再確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけや対応を心がけている	マナー研修を実施し、講師が年長者である利用者を常に尊敬する気持ちで接するよう指導してくれ、職員も意識するよう努めている。トイレの扉が開いた状態で介助していた場合は、扉を閉めるよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き自己決定に結びつけている。表情やしぐさなどから思いを汲みとり自己決定に近づけるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるよう一人一人の希望を聞くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や状況に応じた服装やその人らしさを大切にしている 希望があれば美容院等へお連れするようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞きながらメニュー作りをしている できる方には職員と一緒に下ごしらえや食器拭き後片づけ等をしていただいている	献立は家庭と同じように冷蔵庫にある材料で、その都度決めている。週に1回朝食にパンを提供していたが、利用者から毎日ロールパンが食べたいとの要望があり、提供している。利用者から皆に自分が焼いたお好み焼きを食べさせたいと希望され、実施した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えメニュー作成をしている。状態に合わせて食事の形態やメニューの変更をしている。一人一人の食事量・水分摂取が把握できるよう記録し、不足しがちな人には声掛けをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。職員が側で見守り声かけをしながら丁寧に磨けるよう支援している。必要な入居者には椅子を用意し座ってできるようにもしている。歯ブラシ・コップ等は定期的に消毒を行い清潔を保つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングなどを把握し、声かけ・誘導している 排泄チェック表を活用している	トイレでの排泄を基本としている。立ち上がったままトイレへ行きたくないという利用者には、歯磨きの時や居室に戻るタイミングで、そのままトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食事の工夫や水分をしっかり摂取できるよう声かけしている 身体を動かしたり散歩やホール内を音楽に合わせて歩くなど運動をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まった入浴日はあるが、本人の希望で入浴できるようにしている。浴槽に入れない方には足湯をしながらのシャワー浴をするなど個々にそった支援をしている	利用者に「今日はお風呂の日ですがどうしますか」と意思を確認してから、支援をしている。一番に声を掛けて欲しい人には、利用者と一緒に下着の用意をして、一番に入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて気持ちよく眠れるよう室温や布団を調整している 眠れない時はお茶を飲むなどして職員と一緒に過ごしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効等、記したものを個人ファイルに綴じてあり、職員は常に確認するようにしている 内服までに二重三重のチェックをしている 気になることは管理者に報告し医師に相談するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、パズル、編み物等好きな事したり、皆で歌を唄う等して過ごせるよう支援したり、ノンアルコールビールやパン食など嗜好品を提供できるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の花や催し物を見にドライブに行ったり、本人の希望を聞きながら外出支援をしている	気候が良い時は、庭に在る東屋に行き、食事やお茶をしている。利用者から「ウォーキングがしたい」と言われれば、事業所周りを歩いてもらっている。また「自宅へ帰りたい」と言われ、自宅へ連れて行く事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理することが難しい為、事務所で小口として預かっている。必要に応じ買い物をしたり、外出時に好きなおやつを買うことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人や家族に電話がかけられるようにしている ハガキ等希望があれば買い置きし自由にやり取りできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁を季節に応じてぬり絵や貼り絵を飾ったり、居室入口には折々の行事等の壁飾りを作り掛けている 共有の場所は落ち着いて気持ちよく過ごせるよう工夫している	外を眺められるよう玄関には椅子を置いている。加湿器に次亜塩素酸を入れ、感染予防に努めている。転倒防止対策として、動線には物を置かないようにしている。日当たりの良い事務所のソファで昼寝をする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人定位置があるが、気の合う者同士が隣に座れるなど思い思いに過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家で使っていたもの、鏡台などを自由に持参し、居心地良く過ごせるよう工夫している	使い慣れた家具を持ち込み、自分らしい部屋作りをしてもらっている。お気に入りの人形をベッドの真ん中に置き、本人は端に寝るため落ちないような工夫をしている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れた環境で安心して過ごしてもらいながら、衣類の脱ぎ着、洗濯物の片付け等、出来ることをしてもらおうよう声かけ見守りながらしてもらっている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390900086		
法人名	有限会社ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホームウェルネス津川		
所在地	高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	平成31年1月4日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お一人お一人の思いに寄り添い、その人らしく暮らし続けられるよう支援しています。職員一同「笑顔」を大切に、利用者と地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考え、行事への参加時に食事作りなどでお手伝いいただき、職員・ボランティアとの交流の場となるよう働きかけています。今年度は入退居が重なり、利用者の中には環境の変化に戸惑われることもあり、その都度、管理者・ケアマネと職員が協力してケアの統一ができるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成31年1月22日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や玄関に掲示し、朝礼時に唱和している 毎月会議で入居者の思いを共有しプランに反映、実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回の出張認知症カフェを2カ所交互に実施している 小中学校の生徒との交流、地域の祭り等に参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回の出張認知症カフェを実施し、カフェを通じ理解や支援をしてもらっている 市民センターや小学校で認知症サポーター養成講座を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じホームの活動状況や入居者の様子、ヒヤリハット、行事・研修の報告をしている。委員の皆さんには行事の内容について相談し参加してもらっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、認知症カフェに参加してもらっている 認知症サポーター養成講座を市役所・社会福祉協議会等と協力し行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け定期的に会議を開き内容を全職員に回覧し周知徹底させている ホーム内外での研修会に参加し廃止に取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け定期的に会議を開き、その内容をユニット会議で全職員に周知、禁止事項等について理解し虐待につながる行為等が見逃されないよう話し合っている。機会があれば研修に参加するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人をして下さっている弁護士から制度について学ぶことができた 家族や市役所と連絡を取りながら必要に応じ活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時に利用契約・重要事項について丁寧に説明し、理解してもらったうえで契約をしている。疑問点については都度対応するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに「意見箱」を設置している 面会時に意見や要望を聞くようにし、ユニット会議・リーダー会議で報告し全職員で共有している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議で意見・要望を自由に発言できる機会を設けている 会議以外でも各リーダーに要望等を相談、運営に反映させるよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回の賞与支給のほか資格取得を推奨し取得のための一部補助、資格手当の支給 受講・受験できるよう勤務調整している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問事業を活用しての自施設研修や接遇研修のほか社外での研修や講習会の機会を増やし多くの職員が出席できるよう勤務調整をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種及び介護支援専門員の交流会、キャラバンメイト・認知症カフェ連絡会議に出席し同業者との交流を図り意見交換等し、職員間で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で家族やご本人の思い等をしっかり聞き、安心して生活できるよう努めている 何でも言ってもらえる雰囲気作りをする。笑顔や穏やかな声かけで安心感を持っていただく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、困っていることを否定的な気持ちで聞くのではなく話しやすい雰囲気作りをする ご家族には「いつ来ていただいても良い」ことを伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つの支援だけに執着せず多方面にわたり情報を収集し対応する 本人・家族としっかり話し合い必要なサービスを提供できるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能に応じ、自分のことだけではなく食器洗い・食器拭き・掃除等できる事を職員と一緒にしていただき出来る喜びを感じていただくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の日頃の様子を伝え常に情報を共有し自然に関わりが持てるように努め、ともに本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人が来やすい雰囲気づくりに努めている。面会や外出・外泊など馴染みの方との関わりを保てるように支援している 面会時等、「また来よう」という気になっていただけるよう職員は明るい対応を心がけている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人を尊重し関わる。感情の変化を理解したうえで、職員が間に入りクッションになったり橋渡し役をしながら孤立、不穏にならないよう努めている(職員は常に中立の立場で対応している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先等へ面会に行ったり、ソーシャルワーカー等との近況や過去の情報のやり取りをすることがある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からこれまでの暮らしぶりを聞いたりホームの生活の中で本人の意向を汲み取るようにし、一人一人の思いや希望を聞き、職員間で共有し支援に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や思い出話、家族からの話を聞き、生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、表情等の様子観察をしている ケアプランに本人のできる事を組み入れプランに沿ったケアの実践をここがけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに定期的にカンファレンスを行い現状のニーズに沿った介護計画を作成していくよう努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の大切さを認識させ、日々の様子や状態の変化など見逃すことのないよう記録し、ケアの実践、見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や病院受診等必要な時は対応できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアに來所してもらうなど安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝夕のバイタルチェック、入浴時の全身観察等、日々の心身の状態の気づきを管理者に伝え受診できるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談をしている 入院中、利用者が不安なく過ごせるように家族や医療関係者に情報提供するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応について家族からある程度の方針を聞き、必要に応じてホーム関係者、家族、医師とで話し合う機会を設けチームでの支援に努めている 介護度が上がった時、今後の希望等を再確認している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習や避難訓練時に対応の訓練をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を地域の方、地元消防団・消防署職員等の協力を得て行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけや対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き自己決定に結びつけている。表情やしぐさなどから思いを汲みとり自己決定に近づけるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるよう一人一人の希望を聞くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や状況に応じた服装やその人らしさを大切にしている 希望があれば美容院等へお連れするようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞きながらメニュー作りをしている できる方には職員と一緒に下ごしらえや食器拭き後片づけ等をしていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えメニュー作成をしている。状態に合わせて食事の形態やメニューの変更をしている。一人一人の食事量・水分摂取が把握できるよう記録し、不足しがちな人には声掛けをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。職員が側で見守り声かけをしながら丁寧に磨けるよう支援している。必要な入居者には椅子を用意し座ってできるようにもしている。歯ブラシ・コップ等は定期的に消毒を行い清潔を保つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングなどを把握し、声かけ・誘導している 排泄チェック表を活用している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食事の工夫や水分をしっかり摂取できるよう声かけしている 身体を動かしたり散歩やホール内を音楽に合わせて歩くなど運動をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まった入浴日はあるが、本人の希望で入浴できるようにしている。浴槽に入れない方には足湯をしながらのシャワー浴をするなど個々にそった支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて気持ちよく眠れるよう室温や布団を調整している 眠れない時はお茶を飲むなどして職員と一緒に過ごしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効等、記したものを個人ファイルに綴じてあり、職員は常に確認するようにしている 内服までに二重三重のチェックをしている 気になることは管理者に報告し医師に相談するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、パズル、編み物等好きな事したり、皆で歌を唄う等して過ごせるよう支援したり、ノンアルコールビールやパン食など嗜好品を提供できるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花や催し物を見にドライブに行ったり、本人の希望を聞きながら外出支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理することが難しい為、事務所で小口として預かっている。必要に応じ買い物をしたり、外出時に好きなおやつを買うことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人や家族に電話がかけられるようにしている ハガキ等希望があれば買い置きし自由にやり取りできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁を季節に応じてぬり絵や貼り絵を飾ったり、居室入口には折々の行事等の壁飾りを作り掛けている 共有の場所は落ち着いて気持ちよく過ごせるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人定位置があるが、気の合う者同士が隣に座れるなど思い思いに過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家で使っていたもの、鏡台などを自由に持参し、居心地良く過ごせるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れた環境で安心して過ごしてもらいながら、衣類の脱ぎ着、洗濯物の片付け等、出来ることをしてもらおうよう声かけ見守りながらしてもらっている		